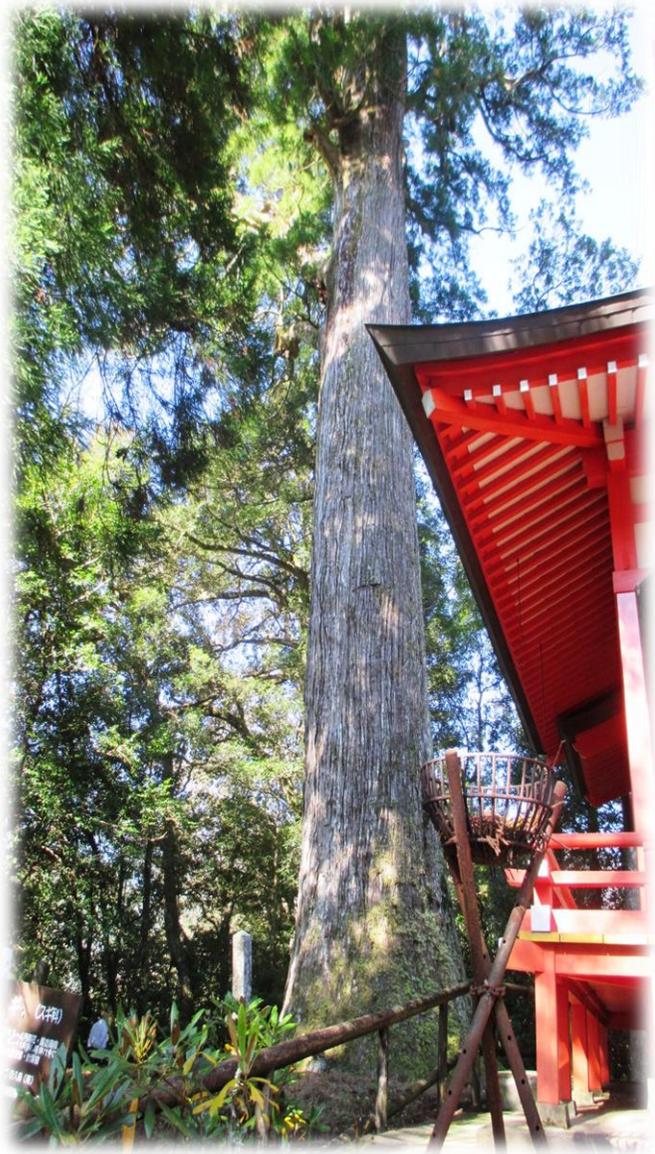


地域林政対談 イン 椎葉

林業の成長産業化の実現に向けて林業を着実に発展させ、地域における雇用の場の創出と所得水準の向上をもたらす産業へと転換することが極めて重要な課題となっています。

このような中で、地域の森林・林業行政を牽引されている市町村長及び県関係者と九州森林管理局の林業関係機関が、各々の地域で実際に直面している具体的な課題について、同じ視点に立って今後の地域林業政策を展開していくことを目指して、情報交換や意見交換を行う懇談の場として「地域林政対談」を実施しています。

第二十四弾は、椎葉村の椎葉晃充村長にご参加いただき、地域林政の今後の展開や森林・林業の可能性などについて、意見交換を行いました。



「林業を主体とした生活基盤作りを進め林業立村を目指す」

〔椎葉村長〕

椎葉村の総面積のうち約96%が森林であり、広大な森林を有することから、適切な森林施業及び重要な産業である林業の振興は本村にとって欠かせない大切な取組である。

椎葉村の人工林は、主伐期を迎えていることから、伐採後の再造林を積極的に推進し、適正な林業の推進により、さらに経済林としての循環型林業を継続させる必要がある。また、このことにより、植栽未栽地や放置林の増加の抑制に努めていかなければならない。しかし、木材価格低迷の長期化による林業従事者の減少及び高齢化などにより林業経営が困難になってきており、結果として林業離れが急速に進行している。また、林業の重要な担い手である森林組合作業班員数も減少傾向にある。

獣害対策については、侵入防止網や電気防護柵設置への補助を行い、被害の未然防止に取り組んでいる。また、有害鳥獣捕獲奨励金の増額等を行ったことにより、捕獲数の増加に繋がっている。しかし、捕獲数は増加したものの、被害額は依然として増加傾向にあるため、今後さらなる取組の強化が求められる。

特用林産については、椎茸の新規生産者や再開者など生産者が増加傾向にあり、従来からの生産者も生産規模が拡大傾向にある。JA日向椎葉支店における椎茸の売り上げ規模は、畜産に次いでおり、村の重要な産業の一つであるため、椎葉村産椎茸の良さを積極的にアピールしブランド化を図ることで、安定した所得の確保に努める必要がある。



椎葉 晃充 椎葉村長

今後さらに作業道や林道の改良・補修等の整備、高性能林業機械の導入等により作業コストの軽減を図るとともに、後継者・担い手対策として就労条件整備等に対する支援を行い、本村における就労の場として、また安定した林業経営を実現させるため、各種助成等の施策を充実させる必要がある。



尾前溪谷 秋の紅葉

（森林経営管理制度（新たな森林管理システム）について）

椎葉村長 伐採後の再造林について、椎葉村では、伐った後には必ず植えましようということで支援してきた。椎葉村は林業立村であるので、山にかけてはどこにも負けたくない。宮崎県の5大河川のうち3河川が椎葉村を源流としており、山を大事にしないといけない。義務感と誇りを持って村民とともに取り組んでいるところである。

木材価格が低迷して林業が非常に厳しい状況であるが、本村では5つの事業体が森林施業に取り組んでいる。森林組合の作業班が減っている中で事業体が頑張ってくれているので、非常にありがたく思っており、村としても事業体の従業員の福利厚生を支援している。宮崎県の林業大学が平成31年度にできるが、一人でも二人でも担い手が増えるのは有り難いことである。林業が厳しい時にこそ頑張っていくべきではない。

九州森林管理局長 木材価格は国際化しており、1㎡当たり100ドル、100ユーロ程度が相場となっている。国際価格になったことで為替相場の影響や調達不安等への懸念から国産材の活用が進んでいるところでもある。ただし、もつと高く売れないかということは課題だと認識しており、JAS製品の拡大などに取り組んでいるところである。また、大径材の需要創出も必要であり、材価を上げて利益が林家に戻ってくるような仕掛け作りをしていきたい。

一方、少しでも山元に還元できるように伐採コストも下げなければならない。更に、造林・保育コストをどのように抑えていくのかということにも取り組んでいる。そのような中で、山がまとまっていなないと効率的な施業ができないので、森林経営管理制度や森林環境譲与税を活用して、県の森林環境税とも両立しながら、取り組んでもらいたい。

椎葉村長 村内の森林管理を進めていくには人手がいる。森林環境譲与税も活用して取り組んでいきたい。

九州森林管理局長 森林経営管理制度については、まずは森林管理の土台作りとして所有者の意向調査を進めてもらいたい。

宮崎北部森林管理署長 林地台帳の整備を進められていると思うが、整備状況はどうか。

椎葉村農林振興課長 林地台帳については、宮崎県からデータをもらうなどして整備を進めているところである。

宮崎県東臼杵農林振興局林務次長 林地台帳については、森林簿と地籍調査の情報の統合を県で実施し、市町村に配付したところである。少しずつ精度を高めていってほしい。

宮崎県東臼杵農林振興局長 宮崎県内では6割の森林が地籍調査が終わっている。地籍調査が終わっているところではある程度正確な林地台帳ができるのではないかと。

椎葉村農林振興課長 森林所有者の意向調査については、森林整備地域支援活動交付金を活用して前倒しして始めている。来年度以降の取組の道しるべになればと思っている。

九州森林管理局長 意向調査の結果を踏まえて、林業経営に適さない森林は森林環境譲与税も活用して針広混交林等へ誘導する一方、林業経営に適した森林は意欲と能力のある林業経営者に委ねるなど、検討してもらいたい。

椎葉村長 国土を守る観点から、山から恩恵を受けている人が森林管理の負担をしてもらうことも必要ではないか。材価が低迷しても、並々ならぬ努力をして林業だけで食べている人もいる。担い手の確保も重要であり、林業大学校については、卒業後の将来像を示さないといけない。機械化により労働条件の改善に取り組んでいるが、急峻な山が多く路網整備が難しい山も多い。市町村の取組では限界があるので、国、県の支援をお願いしたい。

地域林政対談 イン 椎葉

平成30年10月23日(火) 15:00～17:00

椎葉村役場 会議室

出席者(敬称略)

○椎葉村

椎葉 晃充 村長
黒木 保隆 副村長
椎葉 今朝志 農林振興課長

○宮崎県東臼杵農林振興局

渡邊 幸一 局長
濱砂 正則 林務次長

○林野庁九州森林管理局

原田 隆行 局長
黒木 慶次郎 宮崎北部森林管理署長
勝沼 太志 企画調整課長

